

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0197400013		
法人名	社会福祉法人 幸鐘会		
事業所名	グループホーム ベにばら		
所在地	〒078-2100 雨竜郡秩父別町1542番地33 (電話) 0164-33-2677		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年3月15日	評価確定日	平成22年4月13日

【情報提供票より】(平成22年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	19年	4月	1日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	22人	常勤	13人,	非常勤 9人, 常勤換算 10.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	24,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	350円	おやつ	150円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	4名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.6歳	最低	74歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人アンリーデュナン会 深川第一病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、平成14年に特定非営利活動法人として開設し、平成19年に社会福祉法人化されており、秩父別町の中心部に位置した閑静な住宅地に立地している。利用者は、一人ひとりの希望に応じて、事業所に隣接した畑で野菜づくりや趣味の作品づくりなどを楽しんでいる。また、外出や買い物、調理、掃除を、職員と共に行っている。利用者は町のイベントに参加し、地域住民は事業所の祭りに参加して、地域交流を深めている。職員は「尊厳のある生活」、「地域の方々と共に」という理念に基づき、利用者本位の暮らしを支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、重度化や終末期の方針、災害対策が改善項目としてあがり、検討を重ねてきたが、具体的な改善までは至らなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を理解し、スタッフ全員で自己評価に取り組み、管理者が整理している。今回の評価での課題として、家族との積極的な意見交換や地域交流などがあがっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、役場職員、民生委員、地域住民、家族代表者などが参加して、2ヶ月に1回開催している。会議では、活動や利用状況、外部評価結果の報告、意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。災害時の地域への協力依頼は、運営推進会議で依頼しているが、検討中となっている。また、役場で行われる会議に参加して、定期的に意見交換や情報収集を行い、連携を図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、家族に便りや広報誌で近況報告を行い、面会時にも普通の暮らしぶりを伝えている。また、利用者が体調不良になった時は、その都度報告している。来訪時などに家族と意見交換する機会を持っている。苦情受け付け体制について説明文を掲示し、苦情箱を設置したり、第三者の苦情窓口を設けている。また、出された意見や要望について、スタッフで話し合い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、町や商工会の地域行事に参加している。毎年、「べにばら祭り」を開催し、地域住民も参加し交流を図っている。小学校の入学式に手づくりのお祝いの品を届けたり、演芸ボランティアを受け入れるなど、地域交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自のケア理念として、「地域の方々と共に、安らぎのある笑顔のたえない健やかな人生を送っていただく」と掲げ、理念に基づき、地域との関係を深めていくケアを実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議、ユニット会議、サービス担当者会議など、日々のケアの中で理念について話し合い、共有しながらケアの実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町や商工会の地域行事に参加している。毎年、「べにばら祭り」を開催し、地域住民も参加し交流を図っている。小学校の入学式に手作りのお祝いを届けたり、演芸ボランティアを受け入れ地域交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を理解し、スタッフ全員で自己評価に取り組み、管理者が整理している。前回の評価では、重度化や終末期の方針、災害対策が改善項目としてあがり、検討を重ねてきたが、具体的な改善までは至らなかった。今回の評価での課題として、家族との積極的な意見交換や地域交流などがあがった。	○	前回の評価で改善項目となった、重度化や終末期の方針、災害対策については継続して検討し、今回の評価の課題も含めて、検討、改善することを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、役場職員、民生委員、地域住民、家族代表者などが参加して、2ヶ月に1回開催している。会議では、活動や利用状況、外部評価結果の報告、意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。	○	災害時の地域への協力は、運営推進会議で依頼しているが、検討中となっているため、継続して議題として提案していくことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場で行われる会議に参加して、定期的に意見交換や情報収集を行い、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族に便りや広報誌で近況報告を行い、面会時にも普段の暮らしぶりを伝えている。また、利用者が体調不良になった時は、その都度報告している。	○	預かり金の出納状況については、定期的に報告し、確認のサインをもらうなど、使途を明らかにしていくことが期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時など、家族と意見交換する機会を持っている。苦情受け付け体制について説明文を掲示し、苦情箱を設置したり、第三者の苦情窓口を設けている。出された意見や要望に対し、スタッフで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動を行う時は、利用者や家族にダメージを与えないよう馴染みの関係を築けるよう配慮している。また、広報誌で異動について報告している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、職員の経験の段階に応じて受講している。研修内容について、職員全員で共有できるように全体会議の場で報告する機会を設けている。また、救命講習は職員全員が受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉関係者との定期的な会議や他のグループホームとの相互見学研修を行い、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人や家族が見学や体験利用をすることで、馴染みの関係を築き、不安の解消に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に行動し、会話をして時間を共有する中で、人生の先輩として学ぶ心を持ち、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを使用して、一人ひとりの希望、利用者や家族の意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を反映しながら、定期的に行うカンファレンスの場面で職員間の情報交換をし、一人ひとりの暮らしを支援した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施状況を踏まえて、3ヶ月に1度計画の見直しを行っている。入院や身体状況が変化した際は、その都度見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が宿泊を希望したときは、宿泊や食事の対応をしている。また、外出時や通院時の送迎用に車両を用意して、付き添いを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。通院については、送迎や付き添いを行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化や終末期の対応について説明し、同意を得ている。主治医や家族と相談しながら支援している。	○	重度化や終末期の指針については、家族の理解を深めるために、説明書類の内容が具体的なものになるよう、対応できる範囲を示していくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人理念として「尊厳のある生活構築」を掲げ、日ごろから声かけの方法や言葉遣いに注意している。個人情報の取り扱いに関する取り決めがあり、家族に説明して同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のリズムや生活習慣を尊重し、利用者のペースで、自由に生活できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が重度化してきているが、一人ひとりの意向やできることを考慮し、買い物や調理、準備、片付けなど、会話をしながら一緒に行っている。職員も利用者と同じものを食べて、楽しく食事をできるように雰囲気づくりも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて、週2～3回の入浴となっている。時間帯は利用者の意向を踏まえて、午後となっているが、希望があれば、別の時間帯や毎日でも入浴できる。入浴を拒否する利用者には、時間を置くなど適切な対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活習慣や能力に応じて、畑づくり、除雪、清掃、魚の餌やり、調理などの作業活動の機会を提供している。一緒にできることを考え、生活を意欲的に楽しむような支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に合わせて、散歩に出かけたり、スーパーに買い物に行っている。暖かい時期は、日光浴を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間の玄関の施錠は行わず、夜間のみ施錠としている。見守りや関わりを重視して、自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導、協力を得て、避難訓練や消火訓練を年に2回実施している。避難訓練は、昼間想定の実施している。防災マニュアル、緊急連絡網を用意している。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、利用者の生活習慣や嗜好を献立に取り入れ、定期的に栄養士と相談し栄養バランスにも配慮しながら支援している。必要な利用者には、食事、水分摂取量の確認をしている。咀嚼や嚥下状態に合わせて、食事形態やとろみ剤の使用などの工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には、利用者の作品や事業所の行事の写真を掲示しており、家庭的な雰囲気づくりに努めている。気になる音や光、臭いなどはなく、快適な環境になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や仏壇、写真など思い出の品々を置き、居心地良く過ごすことができるように工夫をしている。		

※  は、重点項目。